

狐屋敷遺跡の調査概要

国土交通省北陸地方整備局羽越河川国道事務所
新潟県教育庁文化行政課

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

はじめに

狐屋敷遺跡(村上市小川字狐屋敷ほか)は国道7号小川交差点改良工事に伴い、平成24年4月から6月上旬まで発掘調査を行う予定です。遺跡は中世(15世紀頃)の集落跡で、調査面積は675㎡です。

遺跡の立地

三面川左岸の沖積地に立地します。遺跡が検出される標高は12.0m前後です。

発見された遺構

小型の孔や柱穴・土坑・井戸・自然流路・畑の耕作跡とみられる溝等が検出されています。井戸には素掘りのもの、木材で井戸枠を組んだものや、石組のものがあります。石組の井戸は一般的な集落ではあまり見られず、集落の居住者を推定する貴重な資料になります。今回の調査範囲では建物跡は検出できていません。しかし、現在の水路下にも遺構が伸びていると考えられます。

出土した遺物

珠洲焼(石川県能登半島珠洲産)の壺・甕・播鉢、越前焼、瀬戸焼、中国産の青磁・白磁、砥石等があります。珠洲焼は北陸から東北に広く流通しており、遺跡の時代を推定する指標になります。

ほかに平安時代の土師器・須恵器が少量出土しています。

まとめ

今回の調査範囲は狭小なため、集落の全体像は不明です。集落は東側の水田・畑地、西側の現小川集落まで広がっていると推定されます。小川の地は、中世には村上城に本拠地があった本庄氏の支族が支配していました。本庄氏の支族は地名から小川氏を名乗りました。天文二十年(1551)に小川氏が滅亡すると、荒廃した小川には本庄市の家臣であった石栗将監が入ったと考えられ、現在の小川集落には石栗姓の家が多くあります。現在集落内にある金源寺境内は小川館跡(中世)の比定地となっています。現在の金源寺は江戸時代の元和元年(1615)に寺尾から移築されました。

今後は、検出された遺構と出土した遺物を詳細に検討し、集落の様子を明らかにしたいと考えています。



第1図 石組井戸



第2図 珠洲焼・青磁・白磁・瀬戸焼